

平成 29 年度 箕面国有林におけるニホンジカの生息状況外モニタリング調査委託報告書 (概要版)

平成 30 年 3 月 株式会社野生動物保護管理事務所

1. 誘引効果の検証及び効果的かつ効率的な捕獲技術の検証

首用くりわなおよび箱わなについて、センサーカメラを用いてシカの誘引状況および行動特性の調査を実施した。

結果

- ・ 首用くりわな 4 台、箱わな 5 台にセンサーカメラを設置した。
- ・ 首用くりわなの撮影頻度は 0.24～1.43 頭/日で、箱わなは 0～0.84 頭/日となり、首用くりわなの方がシカの誘引が多かった。

考察

- ・ 首用くりわな設置後、わな周辺に現れてから、首をわなに入れるか餌の完食記録があるまでの日数が（期間 B）11 日以上かかる場合、首を入れるようになってから捕獲にいたるまで（期間 C）約 2 ヶ月以上かかるか、捕獲できない可能性が高い（図 1）。
- ・ ヘイキューブを使用した首用くりわなではシカの誘引が多く、米ぬかを使用している箱わなではイノシシなどのその他の動物が誘引されることが多かった。
- ・ シカの過度な採食により下層植生が衰退している箕面国有林においては、夏季の 8 月から 9 月にかけて、ヘイキューブは十分に誘引餌として有効であった（図 2）。

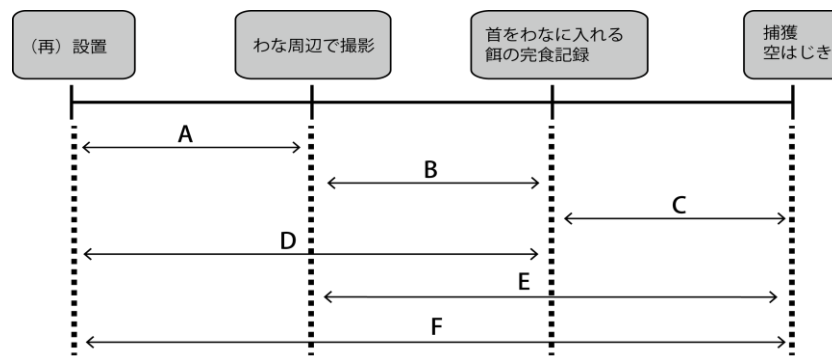


図 1 誘引状況の段階分け

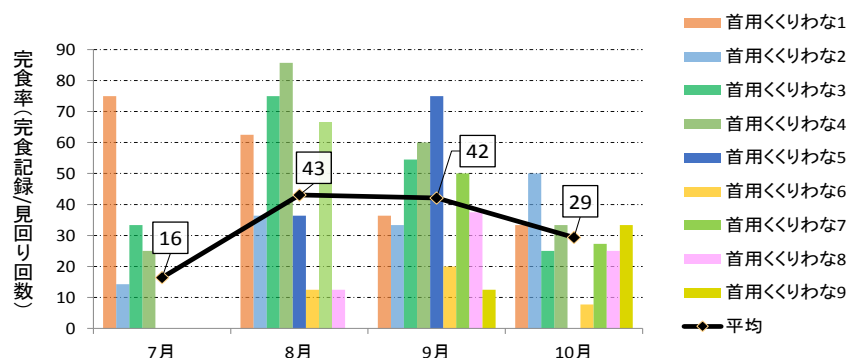


図 2 首用くりわなのヘイキューブ完食率 (%)

2. GPS テレメトリー調査

箕面国有林内に生息するシカに GPS 首輪を装着し、行動特性を把握することとした。なお、平成 28 年度事業において装着した個体のデータも合わせて解析した。

結果

- 新たに 1 頭のシカに GPS 首輪を装着し、平成 28 年度捕獲個体（2 個体）の GPS 首輪を回収した。
- GPS 首輪装着個体は箕面国有林内を頻繁に利用する個体が多かった（図 3）。
- 昼夜別の利用状況は、日中は森林内を利用し、夜間は道路やゴルフ場など人目に付きやすい場所も利用していた（図 4）。
- 猟期と非狩猟期の行動圏の違いは見られず、箕面国有林内を多く利用している個体は、国有林内にとどまっていた。
- 利用地点の道路からの距離を分析すると、道路から 300m 以内の利用が多く、夜間は 100m 以内の利用が多かった（図 5）。

考察

- 箕面国有林内を利用の中心としている個体は、猟期中も国有林内を利用し定住個体であったことから、定住個体の捕獲を優先する必要がある。
- 道路から数百 m 離れた場所を利用している個体でも夜間には道路周辺を利用していることがわかった。
- 道路周辺での捕獲は、道路から離れた場所のシカの密度低下にもある程度貢献できることが想定される。
- ただし、道路周辺での捕獲圧を高めるとシカの行動が変化する恐れがあるため、将来的には道路から離れた山中での捕獲方法について検討が必要である。

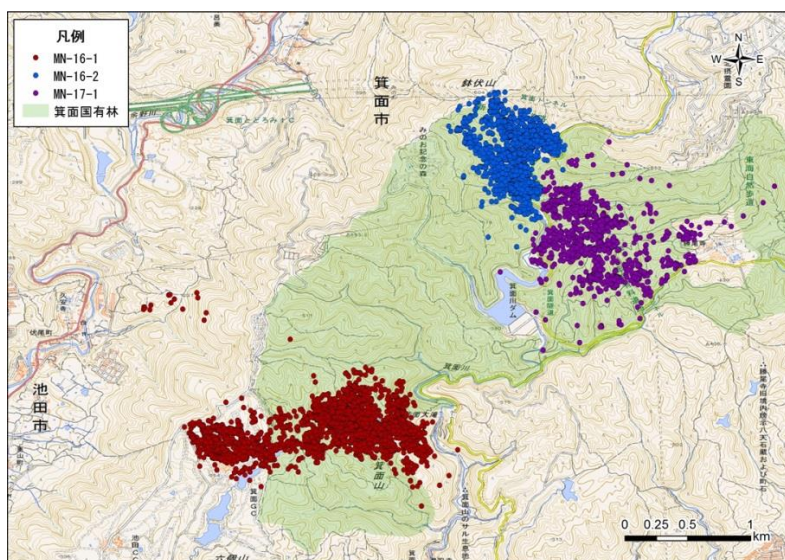


図3 GPS 首輪装着個体の利用地点と行動圏

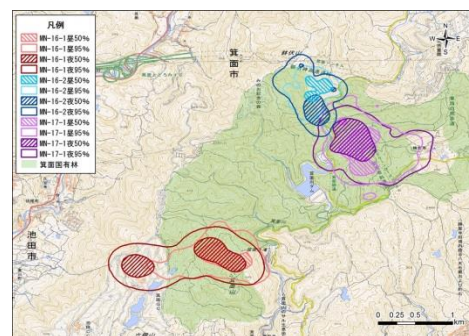


図4 昼と夜の行動圏

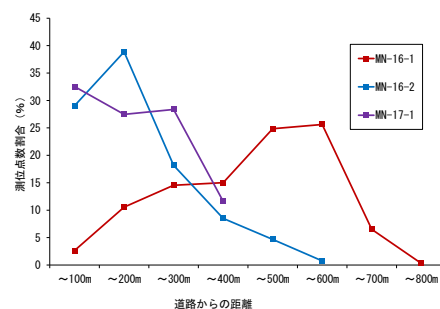


図5 GPS 首輪装着個体の利用地点の
道路からの距離